



#### ★4月13日(木)6限目 進路講話(前関西支部長 松寺 晃氏)

松寺さんは『節目』について考えておく必要があると話されていた。就職先も決める際、『証券会社』にするか『味の素』にするか？ 仕事を決めるときの基準として・・・

『生涯を通して働く仕事であるか』、『自分のしたいことができるか』と悩まれ、最終的に松村さんは仕事を通して自己実現できる職場であり、人の健康への土台となる業種をと考え、『味の素』を就職先として決められた。君達も就職先を決める際、何を基準に決めるのか今のうちから少しずつ考えておこう。

また、松寺さんは『自分が主人公』とも話された。人生において自分自身が主人公であり、自分の人生を素晴らしいものにするためには、自身がやる気を起こさねばならない。そして、物事の判断をする際は人の意見を聞かねばならないが、最終的に物事を決めるのは自分自身であるとおっしゃっておられた。近い将来、君たち三年生も進路を決めねばならない。現時点で『進学』と『就職』を迷っている生徒がいると思うが、決めるのは自分である。親や先生などいろいろな人に相談をすればよいが、最終判断は自分である。進路決定まで思う存分悩み、納得のいく結論を出してください。

## ○将来について悩むのはあたり前

自分の将来について悩むのは当然のことで誰もが通る道である。私（36H担任）が大学生の頃、バブル経済の絶頂期で企業訪問へ行けばどの企業からも内定がもらえた時代である。自身、証券会社や銀行などの金融機関から内定をもらっていたが、高校の教員になりたいという夢もあり、果たしてこのまま就職してよいものかと悩んだものだ。周囲の友達が民間企業から内定通知をもらい遊び呆ける中、たまたま立ち寄った書店である本と出会った。その本との出会いが私の運命を変えた。

今では芥川賞作家となり有名になった阿刀田高さんのことが書かれていた本だ。その本には阿刀田さんが作家になろうとしたきっかけについて書かれていた。

阿刀田さんは幼い頃大変貧しく、将来は貧しい暮らしを絶対したくないと誓い、一生懸命に勉強に励んだ。大学卒業後は国立図書館に勤務した。しかし、幼い頃からの夢であった作家になるという夢を捨てきれずにいた。阿刀田さんはアルバイトで文筆活動をするようになり、それなりの副収入も得るようになった。そこで文筆活動に専念するか、今のまま国立図書館に勤務しながら（安定した生活）アルバイトで文筆活動をするか悩んだ。その頃、阿刀田さんには妻子がおり、自分が文筆活動に専念した場合のことを考えた。もしも本が売れなかったらどうなるか。自分が幼い頃に味わったような辛い苦しみを妻や子にさせることになる。阿刀田さんは悩みに悩んだ。そこで阿刀田さんは3人の友人に相談した。一人は阿刀田さんを心配し、『国立図書館の安定した仕事を捨てるべきではない』と辞めることに反対した。もう一人は阿刀田さんの才能を評価し、『君の才能なら絶対に成功する』と太鼓判を押した。しかし、阿刀田さんは決断できずにいた。阿刀田さんは3人目の友人に相談した。その友人の言葉を受け、文筆家になる決心をした。その言葉とは何か、それは『何も悩むことはない。人生は一度しかない。自分が何をしたいか、どのような生き方をしたいかじゃないのか』というものであった。阿刀田さんは国立図書館を退職し、文筆家の道を志した。

私は阿刀田さんの記事を読み、企業からの内定を丁重に断り、教員一本に絞ることを決めた。さて、君達には『なりたい職業』がありますか。将来の職業についてよく考えてください。  
**「夢を叶えるためにできることは、まず叶えるための行動にうつすこと！」**

## ★4月14日(金)5限目 携帯電話利用方法講話(星野又一氏)

### 文字コミュニケーションの怖さ

相手の顔が見えないので自分の都合で勘違いしてしまう。(相手の都合を考える必要がある) 誰が読むのか、誤解されていないかなど。自分がやられて嫌なことはしな事。いいたいことがあったら面(本人と直に会って)と向かって堂々と話すべし!

### 嘘の投稿

軽い気持ちでネットに投稿 → あっという間にネットに拡散  
(原因: 真実か嘘の判断・悪意をもって広める人がいる)  
単なるいたずらでは済まされない(偽計業務妨害罪で逮捕されることも・・・)  
特徴・世界中の人が見ている、一瞬で広がる、誰がやったかすぐにわかる、一生消えない  
(軽はずみの投稿は将来の進路に大きく影響を及ぼすこともあり得る)

### 写真のゆくえ

トラブルのポイント あっという間に拡散するので人に見られて困る写真は『絶対に撮らない』、『絶対に撮らせない』

**「正しい知識で危険を避け、ケータイ・スマホを賢く使いこなそう！」**